

## 2 「聴く態度」を育てよう

### ☆能動的に聴く態度とは

受け身になって聴くのではなく、話を引き出すように聴く態度のことです。

話を聴いて、うなずく、相づちを打つ、意見を述べるといった具合に、聞き手の役割を表しています。

### 「聴く」こと

学び合いの中で大切なことは「発言すること」よりもむしろ「聴くこと」かもしれません。クラスの全員が自分の意見を一生懸命聴いてくれているということが分かれば、分かりやすく話したい、丁寧に説明したいと思うはずで、そのために、「能動的に聴く態度」を育てることが必要です。また「聴くこと」は、自らの思考を広げ、深めることや、判断材料を増やすという意味においても大切です。このことをしっかりと生徒が意識できるようにしましょう。

### 教員が「聴く」

生徒が発表や発言をしている時、その言葉だけを聞いていませんか。生徒が言葉を発している時には、その内容や思いをきちんと受け止めなくてはなりません。教員が聴く姿勢を示すことが、「聴く態度」の育成の第一歩です。

また、その発表や発言を聴いている生徒たちの思いや、つぶやきも聴くようにしましょう。生徒同士の考えをつなげることは、教員の大切な役割の一つです。

### やさしい聴き方

相手の話したいことに寄り添って聴く、相手を受け止める、相手に分かるように話す、といったことを生徒が意識できるようにするために、「やさしい聴き方をしよう」と普段から声かけをしていきましょう。たとえ間違っている発言があったとしても、そこから正解を導けば、間違えたことを失敗にしないというクラスの雰囲気ができ、学び合いが深まります。

### 個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

#### 聴き方のコツを伝えよう

自分の話は一方的にするけれど、人の話を聴くことが苦手な生徒がいます。話を聴くときには、うなずく、相づちを打つ、いいと感じたことを伝えるなど、聴き方のルールやコツをメモにして渡しておく、スムーズな話し合いをすることができるようになります。



## 「聴く態度」を育てる

「能動的に聴く態度」を育成するために、インタビュー形式での話し合い活動が有効です。

インタビューは、自分の知りたい情報を聴き出すものであり、そのために適切な質問をしたり、相手の話を受け止めさらに質問を返したりといった活動です。

また、インタビューは、話すことが苦手な生徒にとっても、質問に答えるという形式なので参加しやすい学習活動となります。

### 〈例〉 「インタビュー活動による聴く態度の育成」

#### 【ステップ1】 身近なテーマでインタビュー

- ・ペアをつくり、聴き手は質問を繰り返し相手の考えを聴き出す。テーマは、「最近楽しかったこと」といった体験や、「好きな食べ物」といった答えやすいものにする。
- ・3分程度の時間を決めて、一つのテーマで話を続ける。
- ・インタビュー後に聴き手が、話し手の考えをまとめて発表する。

#### 【ステップ2】 根拠を聴き出すインタビュー

- ・理由を聴くことを課題として、インタビューを展開する。「なぜそう考えたのか、根拠は何か」について、納得できるまで質問する。聴き手は相手の発言の後に「～ということですね」と確認して、関連する質問を促す。

#### 【ステップ3】 発表者にインタビュー

- ・調べ学習の後の発表やスピーチの場面で行う。発表者に対して、相手の考えを確認する質問、相手の考えを深める質問、助言につながる質問等を意識して行えるようにする。

(例) 「それは○○○ということですね。それについてもう少し詳しい説明を聴かせてください」

「○○○について、私は△△△と思うのですが・・・このことについてどう考えますか」

「○○○はどのように調べたのですか。それがはじめに説明されると分かりやすい発表になると思います」

### ☆「聴く」と「聞く」

同じ「きく」という漢字です。どちらも音や言葉を「きく」という意味ですが、「聴く」は注意深く耳を傾けてきくときに使う漢字です。

話し手の声を傾聴してほしいとの思いを込めて、授業で生徒に身に付けさせたいのは、「聴く態度」であることを意識しておくといでしょう。

### 言葉遣いについて

授業は教員だけでも、生徒だけでも成立しません。教室の中の全員でつくり上げるものです。伝え合いも生徒間だけではなく、教員と生徒の間でも大切です。互いを尊重し、丁寧な言葉遣いで会話をするようにしましょう。